

## 米国ワシントン大学短期英語プログラム 事後報告書

(平成 24 年 8 月 25 日～9 月 16 日)

### 1、プログラムで受講した授業に対する印象、コメント

- ・“話す”という行為に重点を置き、“生きた英語”を学ぶことができます。

プログラムでは、テストによってクラス分けが行われ、それぞれのクラスに合ったテキストが配布されます。テキストの内容は、主に日常会話において頻繁に使用される文法や熟語を扱っています。しかし、私のクラス（写真1）ではテキストを使用する機会がとても少なく、文法や語彙を学ぶというよりも、人前で英語を使い意見を発表するというところに力を注いでいました。例えば、初日の自己紹介では、ペアを作り、互いの紹介をした後にクラスメイトの前でパートナーを紹介し合ったり、様々な街の散策をした後に、簡単なプレゼンテーションを行ったりしました。私たちのクラスの担任は、



写真1：クラス写真  
UWの敷地内にある噴水の前で撮影した写真です。修了証に使用するため、それぞれ各クラスに分かれて撮影しました。

発表の際に原稿を見るという行為を禁止していたので、英文を読むという日本の授業とは大きく異なり、英語を話す環境に毎日置かれることで、人前で英語を話すことに、次第に難しさを感じるものが少なくなりました。また、私のクラスはほとんど全員が日本人でしたが、日常会話も全て英語で行うことで、お互いを成長させることができました。さらに、日本語や日本の文化を知らない先生や海外から来た生徒と接することで、日本人同士で話している英語が、バックグラウンドの違いのために伝わらないということを知ることができました。このようなことを通して、日本で学ぶ英語とは違った、日常において欠かせない“生きた英語”を学ぶことができました。

- ・週に2回行われるフィールドトリップを通して、シアトルについて知ることができます。

授業が行われるのは平日の午前だけなので、午後に週 2 回行われるフィールドトリップというアクティビティがあります。主に有名な観光地をクラスメイトとたちと回ります。この際、交通費は支給され、一緒に回るスタッフとの会話や現地の人たちとの交流も深めることができ、とてもいい経験になりました。集団で行動するため、様々な特典が付いており、スタッフから教わる歴史や文化、シアトルの日常を知るためには一番良い機会なのではないかと思いました。また、授業以外でクラスメイトと関わる機会を持つことで、クラスの雰囲気はトテモ良くなり、授業のモチベーションも上がりました。

## 2、ワシントン大学での生活体験

- ・開放的な空間なので、ストレスを感じることなく過ごせます。

大学に着いて1番驚いたのは、広大な土地と様々な施設があることです。私が利用した施設はごく一部でしたが、毎日飽きる事のない広さがあり、リスや鳥などが多く生息していて、自然に囲まれていました。また、カフェと図書館がとても充実していて、大学全体にゆっくりとした空気が流れていました。さらに、芝生に寝そべり日光浴を楽しむ人や、毎朝ランニングを楽しむ人たちがいて、とても爽やかな気分で朝を迎えることができました。



写真 2 : University of Washington の正面入り口にある大学のシンボル

- ・大学の近くにある **University Street** で昼食やショッピングを楽しむことができます。

大学から1本ずれた通りのことを **University Street** と呼び、そこには飲食店や日用品店、さらには本屋まであります。学校の生活が垣間見える、とても賑やかな通りになっています。本屋では大学のお土産が買え、ドラッグストアでは日用品やお菓子をとても低価格で購入することができ、節約することができました。

## 3、シアトルの都市の様子

- ・きれいな景観と自然に囲まれています。

シアトルの街には綺麗な建物が多く、とても魅力的です。特に主な観光地であるスペースニードルやコロンビアタワーは外観も内観もきれいで、良い思い出になりました。さらに、シアトルには多くの湖や公園があり、休日や学校帰りに行くと、多くの人がランニングやローラースケートなど、色々なスポーツをしながらリラックスした時間を過ごしていました。



写真 3 : コロンビアタワーから見たシアトル市

- ・“Diversity” を実感できます。

アメリカは“Diversity”な都市だと言われていますが、シアトルにもさまざまな人種の人がありました。アジア系の人もいれば、ヨーロッパ系の人もいました。その為か、街の至る所に様々な国の料理店があり、シアトルに居ながら、ロシア料理やタイ料理を味わうことができました。そしてなにより、様々な人と関わることで“Diversity”を実感できました。

- ・カフェが数多く展開しています。

シアトルはスターバックスコーヒーとタリーズコーヒーの発祥の地なので、街中の至る所に展開していました。また、バスや電車の中ではカップを持ったまま通勤、通学する人を多く見かけ、大学ではタンブラーを持って来てコーヒーを淹れている人を多く見かけました。

#### 4、今回の反省から、次回の参加者へ伝えたい注意点

##### ・バスカードについて

ワシントン大学から“U-Pass”というバスカードを勧められますが、高額なため購入は控えたほうが良いと思います。ただし、バスに乗る際には細かなお金をおつりが出ないように用意する必要がありますので、手間を省くために“Orca Card”の購入をお勧めします。また、大学内のある施設でこのプログラムの受講者ということを伝えると、格安でバスに乗れるようにしてもらえますようです。詳細は、今回の旭川校からの受講者が知っています。

##### ・お金について

アメリカでは、ほとんどのお店でクレジットカードが使える、お祭りなどでは現金が使えないお店もありました。なので、現金を多く持つていくよりもクレジットカードを持つていく方が便利かつ、安全であるように思います。また、昼食や夕食は保障されているとのことでしたが、ホストファミリーによっては週に何度か外食をし、自分たちで支払うという方式をとる方もいたので、予算を考える際に考慮した方が良いでしょう。

#### 5、参加を考えているひとへ

私にとって今回のプログラムは、とても貴重な経験になりました。そして、今まで1度も語学研修や留学を経験していない人にとっては、とても取り組みやすく程よいプログラムであると思いました。3週間という期間では、英語力がものすごく伸びるわけでも、アメリカの生活に慣れるわけでもありません。しかし、日常レベルでの自分の実力を知ることができますし、“生きた英語”に囲まれることで、英語でのコミュニケーションの取り方を学ぶこともできます。そしてなにより、ホストファミリーや先生、クラスメイトとのかけがえのない出会いをすることで自分の未来が広がる可能性があると思います。もし、「英語あまり話せないから…」、「3週間しかないのに何が得られるのだろう」といった理由で悩んでいたとしたら、ぜひ参加してみてください。英語があまり得意ではなくて、話すのも苦手だとしても、ホームステイを2人にしてもらい協力しながら、単語とジェスチャーと辞書を駆使することでコミュニケーションをとることができます。そして、このような努力や現地での様々な経験は必ず価値のあるものになります。もし、何か分からない事、聞きたい事があったらいつでも聞いてください。答えられる範囲で精一杯協力したいと思います。



写真4：教育大生の集合写真

プログラムの修了式終了後に北海道教育大学札幌校、旭川校、岩見沢校、函館校の生徒全員と国際課の事務員さんと撮った集合写真です。他に3名の事務員さんがいらっしゃいましたが、この時は不在でした。大学の正門にあるシンボル前での記念撮影になりました。